

串本古座高等学校（串本校舎）

実施日時	平成31年 1月 25日（金）
参加者	生徒176名、教職員22名、堀笠嶋地区住民 数名 計228名
実施内容	地震・津波の基礎講座、起震車「ごりよう君」体験

事前の取組

学期ごとの避難訓練において、東南海地震や津波に関する事前学習を行い、率先避難になることが大切だという意識付けをした。

主なプログラム

- ・ 県危機管理局による地震津波の基礎講座
- ・ 起震車「ごりよう君」体験
- ・ 避難パーテーションづくり ・ 串本町役場による簡易トイレ展示
- ・ 災害用新聞紙スリッパづくり

参加者感想文

- ◆ 今回の減災教室で、常に避難道具の準備をしておくこと、率先避難者になることを心掛けようと思った。
- ◆ 今回の「減災教室」で、串本町を襲うとされる「東南海・南海地震」による影響、対策がいくつか分かった。
- ◆ 今回の減災教室を受けて地震が来た時に高校生の自分たちが率先して動くことの大切さを改めて感じました。
- ◆ 今回の減災教室で様々なことを学べたので、実際に地震が起きた時に少しでも役に立てるように努めたいと思った。
- ◆ プライベートテントは、一世帯4人くらいの人が入れるほどのテントで、避難生活が長引いたとしても使えるのではないかと考えた。

- ◆ 「ごりようくん」に乗ったことで、地震の揺れはとんでもなく大きいものだとわかりました。一緒に乗った地域の方々と一緒に話をし、家にいるときはできるだけ安全なところに避難した方がいいということをお教えしてもらいました。
- ◆ 避難生活を過ごす人達には今の自分たちにはわからないようなストレスや悲しみ、不安を抱えている人がほとんどだと思います。そんな中、知らない人たちと同じ空間で共同生活をするのは更に負担がかかると感じます。そんな時に避難所でパーテーションで区切られた空間があれば避難者の負担を軽減できるのではないかと考えました。

成果と課題

本校は沿岸部に位置しており、地震津波に関して日頃から関心を持ち防災教育を行っている。今年度は、県危機管理局、串本町役場との協力のもと、串本町堀笠嶋地区住民の方々とは本校生徒合同で減災教室を行った。先ず県危機管理局より南海トラフ、巨大地震、津波についての講義を行った。その後、パーテーション（避難所のフロアの仕切り）作りを行い、実際の避難所の生活がどのようなものかを体験した。また、起震車「ごりよう君」による最大震度6までの揺れを体感し、実際の巨大地震の揺れも体験した。串本町役場の方々から、プライベートテント、簡易トイレの実物を展示していただき説明を行った。最後に本校防災担

当職員から災害時に役立つ新聞でスリッパを作る方法を説明し、体験した。

今回のこれらの体験をもとに、実際に災害が起こった時に慌てずに落ち着いて行動できるか、自らが進んで率先避難者になることができるかが課題である。

